

消費者協会が開設、コミュニティ機能も備えたアンテナショップ

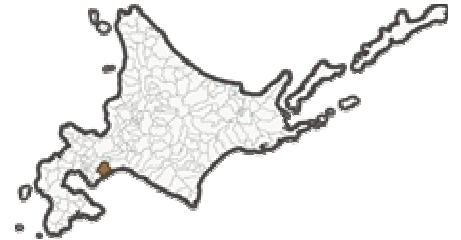
シャッターの降りた店舗の増加が目立つ白老町大町商店街で、消費者協会が空き店舗を借り上げ、地産の特産品などを販売するアンテナショップを開設した。地場産品の発掘や新商品の開発にも力を入れるほか、店舗にはコミュニティ施設を併設するなど、消費者協会のカラーが生かされた店舗運営がされており、商店街をただの商業の場と捉えずに、コミュニティ施設と商店・飲食店が構成する「生活街」にすることを旨とした商店街の再生・活性化が行われている。

北海道白老郡白老町

総人口：19,884（人）
世帯数：9,693（世帯）
総面積：425.75（km²）
人口密度：46.7（人/km²）
（平成22年2月28日現在）

白老大町商店街

JR 白老駅から白老町役場までの中央通沿いに約500mにわたり、小売店、飲食店、事務所等が90軒程並ぶ商店街であったが、昭和58年の国道のバイパス化によって交通量が減少してからは、店主の高齢化や近隣都市への大型店の進出により、空き店舗が増加している。



背景ときっかけ

白老大町商店街では、国道バイパス化による商店街通りの交通量の減少をきっかけに、人口の減少や店主の高齢化、近隣都市への大規模店舗の進出等により商店数が減少、空き店舗も増加し、商店街にはかつてのような活気がなくなり、衰退してしまっていた。

一方、商店街の背後に広がる住宅地は住民の高齢化率が高い地域である。徒歩圏内に役場や郵便局等があり利便性は高いが、地域の核となる商店街が活気をなくし、日用品の買い物が不便になったことは、地域コミュニティ維持の観点から問題とされていた。また、観光資源に恵まれた白老町ではあるが商店街に特産品を扱う店舗がなく、観光客が訪れないといった点も商店街の課題であった。

取組内容

大町商店街では空き店舗の増加を受け、商店街への集客の呼び水となるような新規出店者を求めている。こうした求めに、白老駅構内で特産品販売を行っていたが、より来店者が来やすい街中の店舗を探していた白老消費者協会が応じ、町の補助金を活用して、大町商店街内の空き店舗に、地場産品の委託販売を行うアンテナショップや高齢者がくつろげるコミュニティ施設「いやしの居場所」を備えた店舗を新規に出店した。コミュニティ施設を備えた理由としては、商店街をただ商業サービスの集積地として再生することは難しく、コミュニティ機能と販売店・飲食店機能の混在がこれからの商店街振興には欠かせないと考えているためである。

アンテナショップでは、白老町の特産品を中心とした「特産品販売コーナー」を開設して安全・安心な特産品の販売を行っているほか、地場産品を使用した新商品「白老粋品」の開発や小規模事業者の商品の販売にも力を入れている。

名称：NPO 白老消費者協会（平成20年4月開設）

所在地：北海道白老郡白老町大町3-2-3

面積：約100坪

販売品：鮭ぐるぐる巻等の加工品（白老粋品）、たらこ・鮭とば等の海産物・海産物加工品、山菜・アスパラ等の農産物
ビーフジャーキー等の白老牛を利用した畜産加工品、果物、日用品、雑貨

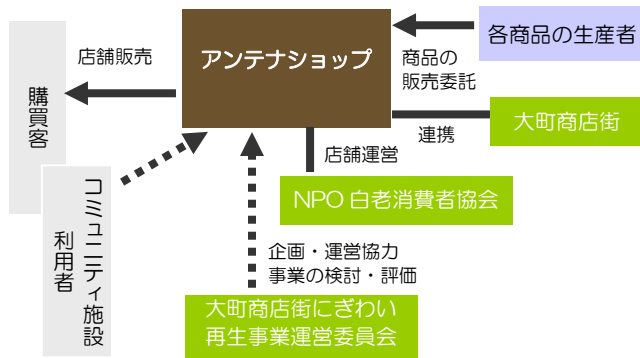
販売方法：委託販売

営業時間：午前10時から午後4時（休業日 お盆、年末年始）

販売員：スタッフ12名（常時2名）



事業の仕組み



※平成19年に白老町が空き店舗を活用した場合の新たな補助金を創設し、消費者協会に補助金を拠出している。それとともにNPO 消費者協会、商業振興会、商工会、役場担当課で結成される大町商店街にぎわい再生事業運営委員会が結成されている。



取組上の工夫

- ただ商品を陳列して販売するのみではなく、保存方法やレシピの提供をしているなど、消費者目線で喜ばれるような売り方を心がけている。
- 商店街とイベントを同時開催するなど、店舗単独ではなく商店街などの他団体との相乗効果で人通りを呼び込み、商店街の活性化を図っている。
- コミュニティ機能を持たせた施設にすることで、来店機会を増加させ、商品購入へとつなげている。



取組効果

- 鮭ぐるぐる巻、鮭ピリカラなどの白老特産品が開発され、新たな特産品として販売されている。
- 新鮮な野菜を販売する店のなかった大町商店街に消費者協会の店舗ができたため、地域住民に受け入れられ来客も増加している。



今後の展望

- 取扱商品を拡大し、より消費者のニーズに沿った品揃えにして、客数の増加を図りたい。
- 「いやしの居場所」等、施設内の他の機能との連携を強化するなど、より多くの集客につながる方策を検討していく必要がある。

